

## 会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第4回）
開催日時	令和4年12月12日（月）午後2時30分から午後3時15分
開催場所	田無第2庁舎 5階会議室
出席者	（委員）鈴木副会長、辻委員、高橋（誠）委員、伊藤委員、小貫委員、齋藤委員、湯澤委員、竹之内委員、依田委員、高橋（綾）委員、門馬委員、根本委員、新出委員 （欠席）高野会長、浅川委員、渡辺委員 （事務局）近藤学務課長、工藤保健給食係長、越川、福井、近藤
議題等	1 報告事項 令和4年第4回西東京市議会定例会に係る一般質問について 2 学校給食について 学校給食における物価高騰の影響と対応について 3 その他
会議資料の名称	1 学校給食における物価高騰の影響と対応について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>○副会長 開会する。 ※ 委員定数16名、出席委員13名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認 ※ 傍聴の申し出無し</p> <p>○学務課長 あいさつに代わり、前回の会議からこの間の給食に関する状況について2点報告したい。 前回の審議会では給食費補助に関して報告したが、8%相当額を各校に補助し、給食食材の購入に充ててもらっており、その効果については後程報告したい。ただし、このまま物価の高騰が続く場合には、給食費の見直しについて議論する必要があることも考えられる。 次は、新型コロナウイルス感染症対策についてだが、先月、国の対処方針が見直された。これを受けて、都のガイドラインの改定もあり、給食に関わる事項では「黙食を徹底するよう指導する」旨の記述が削除されたため、当市においても黙食に関する見直しを庁内決定し、今週中には各校に通知する予定である。</p> <p>議題1 報告事項 令和4年第4回西東京市議会定例会に係る一般質問について</p> <p>○副会長 説明を受ける。</p> <p>○事務局 市議会第4回定例会が11月18日から12月7日に開催され、その一般質問において学校給食関係の質問は6人の議員から通告された。大きく分けると①給食費について②地場産農産物について③黙食について、である。 ①給食費についてだが、質問の趣旨としては、保護者負担の考え方について、給食費補助の継続について、無償化について、の質問を受けた。これらに対する回答だが、保護者負担の考え方に対しては、法的には人件費や光熱費については自治体負担であり、それ以外は保護者負担と示されている。保護者から預かる経費は食材費としている。 次の給食費補助の継続に対しては、物価高騰に伴う保護者負担の増加を抑制するために給食費の8%相当額を小中学校長に補助金として交付し、給食の質と量を確保し</p>	

ている。来年度も物価高騰の影響が継続する場合には、補助の継続を検討したい。また、一定の収入に満たない家庭に関しては、就学援助制度を活用している。

次に無償化に対しては、現時点では法改正を含めて国が検討すべきものと考えており、都の教育長会等を通じて国に対して提起していきたい。

②給食での地場産農産物の活用及び使用率向上への取組に対しての回答だが、納入農家と栄養士会の意見交換会を毎年開催し、より良い関係づくりや課題の共有、情報交換を行っている。また「めぐみちゃんメニュー事業」との連携、西東京市栄養士連絡会の事業として「野菜たっぷりカレンダー」の作成、「地場産農産物を活用した共通献立」を11月に実施し、市内小中学校・保育園でキャベツの和風スパゲッティを提供した。地産地消の推進については、輸送コストの削減、市のゼロカーボンシティーの取組の一つとして認識し、今後も重要な課題と考えている旨の回答をした。

③黙食に関しては、先ほど課長が報告したとおりである。

○副会長 報告に対する質問を受ける。

○委員 地場野菜の使用率の向上についてだが、市内農家は多品種少量栽培の農家が多く、給食への納品が難しいと聞いている。

それらを繋ぐ動きはないのか。例えば、小規模農家をいくつか纏めて納品するというような取組はできないものかと考えるが、そのような動きはないのか。

○学務課長 具体的な動きはない。

地場産農産物をどう捉えたら良いのか、地場はあくまでも西東京市産だけなのか、多摩地域や都内産も地場と捉えるのかによって考え方は変わってこようかと思っている。近隣市の取組では、小平市においてはJ Aが一旦農産物を集約して納品するようにしていると聞いている。

ただし、同じような取組を行うにしても、現在の西東京市の契約農家それぞれの思いや学校側の考えもあるので、それらの意見を聴いた上で調整を行う必要があると考えている。

地場産の使用率向上は、地産地消やゼロカーボンシティーを実現するための重要な取組の一つであるので、継続して考えていきたい。

○委員 農家との意見交換会を行っているようだが、この会議に農家を招いて意見を聞くことはできるのか。

各校がさまざまな農家と契約していることは知っているが、直接話を聞く機会はないので聞いてみたいと思うし、私たちの意見も聞いてもらいたいので、この会議に来てくれると嬉しい。

○事務局 この会議では、審議に必要があると認める時には関係者の出席を求めることができるかとされている。例えば、給食費の改定が議論になったとして、その関係者として必要に応じて出席を求めるということは可能だ。その必要性がある場合のみであり、単に意見交換のために会議に来てもらうということは想定していない。

○副会長 ほかに質問がなければ終結する。

## 議題2 学校給食について

学校給食における物価高騰の影響と対応について

○副会長 説明を受ける。

○事務局 配付資料1の説明

資料説明の補足を学校栄養士に求めたい。

○委員 今回程度の補助があれば何とかやり繰りはできると思うが、現行の保護者負担額だけでは、この資料の内容に加えて更に、個付のおかずを2つだったものを1つにするとか、魚の切り身をすり身に変えて団子状のものにするといった工夫の必要が生じてくるのではないかと懸念している。

- 委員 現在、野菜の値段がかなり安定していることと補助金が増えたことにより、少しだけ余裕が出ている。3学期には値上げ食品のリストが既に業者から出ており、今の余裕を3学期に回せるように僅かに備えている。ただし、予定の値上げ以外に急に野菜が値上がりしたりすると、更なる工夫が必要になるかと思う。そのための調理員の手間にも限度があるので、丼物や煮物、汁物を具沢山にするような調理の工夫によって、何とか栄養を確保していきたい。3学期も、給食予算の状況を見ながらの提供になると思う。
- 副会長 質問を受ける。
- 委員 食料品の値上げのために栄養士にも調理員にも手間をかけていることが理解できた。場合によれば給食費の値上げを議論しなければならないということだが、その場合の判断基準や指標はあるのか。
- 事務局 物価の上昇率に従うといった決まりはなく、基準もない。現在の給食の質と量が継続的に提供できなくなると判断した場合、教育委員会内において様々な方策を考えた上で、この審議会にも相談し、議論をお願いして方向性を決めることになる。
- 学務課長 過去の改定のタイミングとしては、消費税のアップというような明確なものがあつたが、今回の物価高騰が一時的なものなのか、恒常的なものなのかを判断しなければならない。今は、ほぼ全ての食材が値上がりしており、経済情勢が安定したとしても一度値上がりした食品の値が下がるものなのかどうか、これまで経験がないので判断は難しい。生鮮品であれば流通量が値段に反映することも想像できるが、調味料や油などの値上げ食品が元の値段に戻ることが起こるのか、研究をしなければならない。冷静に判断の上、審議会に諮る必要があれば、どう判断したのかは提示したい。
- 委員 献立の工夫によって、残食が増えたのか減ったのか等のデータはあるのか。肉に代わって豆腐が増えたことで残食が増えたというようなことはないのか。好き嫌いの変化が起こることもあると思うので、残食の変化はどうか。家庭でも家計の都合で肉は高いし魚はもっと高価だし、豆腐や乾物料理が増えてしまうこともあると思う。
- そのような中で栄養価はもちろん大切だと思うが、食べてもらっての栄養だし、食べ残してしまうと栄養にはならない。もちろん今後も栄養価も単価も重視してほしいが、子どもたちの食の傾向や残食を見ていかないとならないと思う。
- 委員 市全体の数値ではないが、本校では学校全体の数値に大きな変化はないが、子どもによっては好き嫌いの影響で食べ難いものが続くと残すことはあると思う。
- 献立作りには食材を使う分量に一定の目安があるので、それに近づくように気を付けている。報告1に書かれているのは、例えば肉団子の具材がこれまでは肉100%であったものに半量程度豆腐を混ぜるといった工夫であり、全てが変わってしまうということではなく、子どもたちにも受け入れやすい範囲で実施している。ただし、これにも限度があるので、単価増が工夫では補えなくなれば給食費の改定を申し出なければならないと思うが、補助金のある現状であれば、工夫によってギリギリやり繰りできると思う。
- 委員 今のところは、大きく目立つような献立の変化はないと思っている。7月頃には少し献立作成が難しくなったこともあつたが、補助金が交付されたため、目に見えての変化はないので、残食にも変化は見られない。むしろ、魚は苦手な生徒が多いので、栄養士としては色々な魚を食べさせたいと思って提供してきたが、その回数が減ったり、切り身ではなく具材として使うことで食べやすくなる生徒もいると思う。値の張る果物でも残食になってしまうことがあり、高価なものだから食べ切る、ということもなく、残食は一概に見通せない部分もある。
- 副会長 他になければ議題2を終結する。

### 議題3 その他

- 副会長 その他として、発言はあるか。
- 委員 前回の会議で親子給食のペアが変わったことによる影響について報告したが、その後献立の工夫があったようで、美味しくなったという生徒の声が上がっている。感謝申し上げたい。
- 学務課長 残食の問題に関してコロナ禍での給食時間の確保について、校長会に対し依頼している。  
特にコロナ以降、消毒の準備や手洗いであるとか、決められた給食時間内で準備に時間がかかるために食べる時間の確保が難しくなるという現実が起こっている。中には、時間がないのでお代わりは無しというようなこともあったようだが、喫食時間に関しては柔軟に対応し、十分な喫食時間を確保するよう依頼した。
- 委員 黙食については今週中に各校に通知と報告を受けたが、学校によっては、机を壁に向けて食べているということを知った。これには疑問を感じているが、こうしたことへの決まりが有ることなのか、校長の判断なのか、市からの要請なのかを確認したい。
- 学務課長 同じような実態が数校であったようなので、先日教育委員会として見直しを依頼している。都のガイドラインでは、児童・生徒が向かい合って食事をしないようにという記述はあるが、どの方向が好ましいというような例示はないので、各クラスや学校の方針に委ねることになるが、ご指摘の内容については、見直す必要があると感じている。
- 委員 回答を聞いて安心した。
- 副会長 次回の会議の予定について説明を求める。
- 事務局 次回は来年5月に予定したい。ただし、緊急な課題が出た時には2月頃に招集することもあり得る。次回の審議予定は、3月市議会の一般質問等の報告、来年度の学校給食の課題について改めて提示して意見を求めたい。  
具体的な日程は、調整の上連絡したい。
- 副会長 次回は令和5年度の課題についてとのことなので、事務局においては課題の整理をお願いします。日程調整も事務局に依頼する。

### 閉会

- 副会長 本日の会議を散会する。